



Pick Up News

長いゴールデンウィークも終わりました。新入生の皆さんも緊張感もほぐれて、大学生活にも慣れてきた頃でしょう。ここから夏休みまでは淡々と時間が流れていきます。講義、演習、設計と負荷もかかっていきますが、周りの友人とともに乗り越えて行って下さい。5月より来年の2月まで、不破先生は海外研修制度を活用してデナマーク・オーパスに行っています。機会を見て、現地からの報告も掲載したいと思います。COVID-19の類型変更により、3年ぶりに日常が戻ってきました。交流や会食なども、やっと制限なく、自由にできる環境となりました。街にも国内外からの観光客が溢れています。「活気」が戻って来たことを実感します。皆さんも、この3年間で経験できなかったことがたくさんあることでしょう。少しずつ取り戻して行って下さい。さて、今年の1年生にも本学建築学部で学ぶ意味・意義を考えてもらい、その答え(想い)をまとめた『ここで学ぶこと』を制作し、配付しました。151人全員の思い(想い)が綴られています。今年は「未来のエスキースを描く」という本学の新スローガンを重ねて、一人ひとりの「エスキース」を描いてもらいました。入学直後でこれだけ目標を持って文章が書けるのであれば何にも心配いらない! そう思いました。あとは、コツコツと目の前にあることをクリアしていくことで、自然と未来への道は繋がっていきます。

授業レポート(建築計画Ⅱ:新井教授)住まいづくりの講義と実技を栗駒建築の高橋渉社長にお願いしました。実技はノミを使ったホリ穴削りと槍の鉋げを行いました。いつもは教室の後ろの方にいる学生が前に出てきて活躍し、女子学生も積極的に取り組んでいました。(下左)



建築学科の同窓会「尚建会」が1年生全員に卒業生から寄贈された本の贈呈を行いました。この取り組みは、同窓会を卒業した先輩たちが使用していた建築に関する本などを1年生に贈るもので、「建築を学び始めるあなたに贈る【1冊の本プロジェクト】」として昨年から実施しているものです。配付した本には、1冊ずつ寄贈した卒業生からのメッセージが掲載されていて卒業生と在学生が繋がっている感じがもなっています。



建築学部では、毎年新入生オリエンテーション時に「夢や目標」を書いてもらっています。今年も様々な夢・目標が集まりました。4年間掲示しておきます。たまに振り返り、「あの時」の気持ちを確認してみてください。努力次第。夢は必ず叶います!

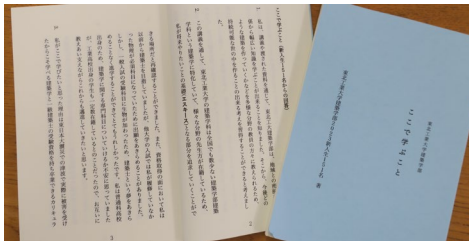
アジア圏で発行されているビジネス誌『Asia Business Outlook』(オンライン雑誌)の特集「Top10 Architecture Colleges in Asia」で建築学部・建築学科が紹介されました。本学のきめ細やかな教育の特徴や建築学部としての総合的建築教育が石井建築学部長(副学長)のインタビュー記事により紹介されています。

TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Japan's Leading Architectural Institute
Renowned for its Student-Centric Approach

Aiming for Excellence
The Architectural Department of Tohoku Institute of Technology was established with the goal of contributing to the industry of architecture, science and engineering. The department has a long history of providing high-quality education and training to students, and has been recognized for its excellence in education and research. The department has a strong focus on practical education and training, and has a long history of providing high-quality education and training to students. The department has a strong focus on practical education and training, and has a long history of providing high-quality education and training to students.

TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY
Japan's Leading Architectural Institute
Renowned for its Student-Centric Approach

Aiming for Excellence
The Architectural Department of Tohoku Institute of Technology was established with the goal of contributing to the industry of architecture, science and engineering. The department has a long history of providing high-quality education and training to students, and has been recognized for its excellence in education and research. The department has a strong focus on practical education and training, and has a long history of providing high-quality education and training to students.



▲ 入学直後のオリエンテーションの中で、石井建築学部長から「本学の建築学部で学ぶ意義」を伝えました。それを受けて、151名の新入生全員が本学部で学ぶことの意味や意義、また自身の決意等を文章にまとめました。その内容を小説風冊子にまとめたものを製本し、『ここでまなぶこと』として全員に配付しました。同じような思いや目標を持って学ぶ仲間がいることを感じてもらいたいと思います。また1年後、数年後、10年後に振り返って自分の成長を感じ、また目標に向かって頑張っているのかを再確認するものとして活用してもらえたらうれしいです。

Pick Up Lab. 新井研究室では2つの空き家活用プロジェクトを進めています。

一つは、登米の文化財である町家を宿泊施設へと転用するもので、「少しリッチな大人宿」をテーマに学生たちが土間や縁側を活かした空間をデザインしプレゼンテーションを行います。夏休みにはセルフリノベーション作業等を予定しています。もう一つは、昨年度リノベーションをお手伝いしてきたシェアアトリエの塩釜・本多工房において、今年度は3階のバルコニーを含む部屋を「クリエイティブリビング」をテーマにコワーキング的な場となるようインテリアデザインと運営の計画提案を行い、現在セルフリノベーションに取り組んでいます。



登米町家リノベーション提案のプレゼン風景



インテリアデザイン等を検討中の塩釜・本多工房3階



2年 田邊 隼貴くん
万代高校(新潟)出身

Pick Up Student 私は普通科の高校から大学に進学しました。そのため、大学の授業では高校まででは学んだことのない建築に関する知識などを初めて学ぶので、周りのすでに知識を持っている工業高校出身の人達に付いていくことが大変でした。また、1年間の大学生活を通して大切だと思ったことは、積極性を持つことです。入学したばかりの頃は、知り合いや友人がいまいませんでしたが、自分から積極的に話しかけに行くことで多くの友人を作ることができました。また、授業中にわからないことを残すのではなく分からなかったら直ぐに先生や友人に聞くことで授業の理解を深めることができました。今後も積極性を持つことを継続して学校生活を頑張っていきたいです。



1年 結城 愛理さん
仙台商業高校出身

Pick Up Student 商業高校出身の私には入学前2つの不安がありました。高校では数学は1.2のみ、理科は1年の際に基礎のみ学んだだけで、授業についていけるか、もう一つは女子の割合が低い中で友達ができるのかということです。しかし、数学や物理は支援講座で1から丁寧に教えて下さる環境があるし、入学前のウェルカムパーティーに参加したことで友達が沢山できました。工業高校の人は建築科目で有利で、普通高校の人は普通科目で有利なので何も出来ないことへの心配な部分はありますが、自分の努力次第でどうにかなると思っています。今は周りの人たちに助けて貰ってばかりなので、恩を忘れずにいつか貰った倍以上の恩を贈れるように日々生活していきたいと思っています。